



九鬼周造年表

一八八八（明治二一）年

九鬼隆一の四男として東京都で生まれる。

一八九四（明治二七）年

六歳。四月、東京高等師範学校附属小学校に入学。

一九〇〇（明治三三）年

一二歳。四月、小学校卒業と同時に東京高等師範学校附属中学校に入学。中学校時代は将来、植物学者になるつもりでいた。

一九〇五（明治三八）年

一七歳。九月、第一高等学校独法科に入学。

一九〇六（明治三九）年

一八歳。天野貞祐、岩下壮一と親交を結ぶ。当時の一高には、児島喜久雄、谷崎潤一郎、和辻哲郎などがいた。岩元禎から哲学の手解きを受け、文科に転科。

一九〇九（明治四二）年

二一歳。九月、東京帝国大学文科大学哲学科に入学し、ケーベル博士に師事する。

一九一一（明治四四）年

二三歳。六月三日、東京神田聖フランシス・ザビエル教会に於いて洗礼を受ける。洗礼名Franciscus Assisiensis Kuki Shuzo。

一九一二（明治四五）年

二四歳。七月、東京帝国大学卒業、卒業論文は「物心相互関係」に関するもの。九月、東京帝国大学大学院入学。

一九一三（大正二）年

二五歳。この年、大学院研究報告論文として執筆した「中世時代における信仰と知識の問題の歴史的展開」（Die geschichtliche Entwicklung des Problems von Glauben und Wissen im Mittelalter）を提出。

一九一八（大正七）年

三〇歳。四月一七日、次兄一造の未亡人九鬼縫子と結婚。

一九二一（大正一〇）年

三三歳。七月、東京帝国大学大学院退学、文部省嘱託となる。一〇月一七日、ヨーロッパ留学に妻と共に出発。一二月末ニースに到着。しばらくニースに滞在。

一九二二（大正一一）年

三四歳。一〇月からハイデルブルク大学に在籍。リッケルトの冬学期の講義「カントからニーチェまで——現代の諸問題への歴史的入門」（Von Kant bis Nietzsche: Historische Einführung in die Probleme der Gegenwart）に出席し、その傍ら、リッケルトの私宅講義として十一月一〇日からカントの『純粹理性批判』（アカデミー版全集第三巻）を用い、三二二頁から最終章までを学ぶ。また、オイゲン・ヘリゲルに「カントの超越論哲学入門」（Einführung in Kant's Transzendentalphilosophie）を学ぶ。

一九二三（大正一二）年

三五歳。四月、スイス、ドレスデン、ライプツィヒ、ワイマール、ミュンヘンなど各地を旅行。五月にはハイデルベルクに戻り天野貞祐と会う。リッケルト夏学期の講義「認識論と形而上学序論」（Eileitung in die Erkenntnistheorie und Metaphysik）、「芸術の哲学」（Philosophie der Kunst）に出席。また、ゼミナールでは、「直観の概念について」（Übungen über den Begriff der Intuition）に出席し、六月六日には三木清の発表「真理と確實性」（Wahrheit und Geweißheit）を聴講する。当時、ハイデルベルクにいた日本人留学生は、ほかには、阿部次郎、大内兵衛、成瀬無極、羽仁五郎らがいた。八月から九月にかけては、アルプス山麓で植物採集と標本作りで毎日を過ごす。一二月下旬、チューリッヒに移る。

一九二四（大正一三）年

三六歳。五月、スイス各地を旅行。それ以外の時期は、夏までチューリッヒに滞在。秋にパリに移る。

一九二五（大正一四）年

三七歳。一〇月、パリ大学文学部に在籍。

短歌「巴里心景」、『明星』四月。

短歌「巴里小曲」、『明星』九月。

詩篇「巴里の窓」、『明星』一二月。

一九二六（昭和一）年

三八歳。一二月「「いき」の本質」を書き上げる。この頃、ジャン＝ポール・サルトルが九鬼の家庭教師をしていた。甲南大学の九鬼周造文庫には、この二人の出会いの証として、「サルトル氏」と題されたノートが遺されている。

詩篇「巴里心景」、『明星』一月。

詩篇「巴里の寝言」、『明星』一〇月。

一九二七（昭和二）年

三九歳。三月一三日、四月三日の両日、『明星』に「押韻に就いて」を発送したが掲載されなかった。四月末、フライブルク大学に移り、フッサール、オスカー・ベッカーから現象学の教えを受ける。フッサールの自宅で、ハイデガーと出会う。十一月、マールブルク大学に在籍。ハイデガーの冬学期の講義「カントの『純粹理性批判』の現象学的解釈」（Phänomenologische Interpretation von Kant's *Kritik der reinen Vernunft*）を聴講。ゼミナールでは上級者向け演習「シェリングの論考『人間の自由の本質』について」（Übungen für Fortgeschrittene: Schellings Abhandlung über das Wesen menschlichen Freiheit）に出席。

詩篇「破片」、『明星』四月。

一九二八（昭和三）年

四〇歳。ハイデガーの夏学期の講義「論理学（ライプニッツ）」（「Logik (Leibniz)」）、ゼミナール現象学演習「アリストテレス『自然学』の解釈」（Phänomenologische Übungen: Interpretation der "*Physik*" des Aristoteles）に出席。六月、パリに戻る。八月一一、一七日にポンティニーにおいて講演「時間の観念と東洋における時間の反復」（La notion du temps et la reprise sur le temps en Orient）および「日本芸術における『無限』の表現」（L'expression de l'infini dans l'art japonais）を行う。秋頃、パリのベルクソンを訪れる。先のパリ滞在時にも一度会っており、二度目の訪問。この際、九鬼はLes Nouvelles Littéraires紙から求められ、「日本に於けるベルクソン」（Bergson au Japon）を執筆する。これは、一二月一五日付同紙のベルクソンのノーベル賞受賞記念号にも掲載された。一二月、ヨーロッパ留学を終えて、アメリカ経由で帰途につく。途中ワシントンに立ち寄った際にはポール・クロードルと会い、アランの美学について話をした。

『時間論』（*Propos sur le temps*）、Philippe Renouard社、八月。

一九二九（昭和四）年

四一歳。一月二九日、日本郵船「春洋丸」にて帰国。船中において「仏独哲学界の現状」ならびに「日本文化」の二篇を書き上げた。三月一六日、東京大学山上会議所にて開かれた哲学会例会で、「時間の問題」と題する講演を行う。四月、京都帝国大学文学部哲学科講師に就任。これ以後、大学の休暇の際に東京の家族のもとに戻るほかは京都で生活することになる。今年度の《特殊講義》は「現代仏蘭西哲学の主潮」。《購読》はベルクソン『意識の直接与件に関する試論』。七月、「カフェーとダンス」を執筆。一〇月二七日、大谷大学において「偶然性」と題する講演を行う（<http://www.bekkoame.ne.jp/~morihisa/morip/guzen-koen.htm>）。

「時間の問題」、『哲学雑誌』五月。

一九三〇（昭和五）年

四二歳。三月二日、関西日仏学館において日仏文化協会主催により講演「仏蘭西哲学の特徴」(Caractères généraux de la philosophie française)を行う。一二月二九日、京都哲学会において「形而上学的時間」と題する講演を行う。今年度の《特殊講義》は「偶然性、その他二、三の哲学的問題」。《講読》はブートルー『自然法則の偶然性』。

「「いき」の構造」、『思想』一月、二月。

「音韻について」、『冬柏』三月。

『「いき」の構造』、岩波書店、一二月

(http://www.aozora.gr.jp/cards/000065/files/393_1765.html)。

一九三一(昭和六)年

四三歳。八月、父隆一死去、享年七九歳。一二月二〇日、母波津死去、享年七一歳。今年度の《特殊講義》は、「ハイデガーの現象学的存在論」。《講読》は、ライプニッツ『形而上学序説』、『单子論』など。

「形而上学的時間」、『朝永博士還暦記念哲学論文集』、四月。

「日本詩の押韻」、岩波講座『日本文学』、一〇月。

「日本詩の押韻」、『大阪朝日新聞』一〇月一六、一七日。

一九三二(昭和七)年

四四歳。一二月九日、京都帝国大学に提出した学位論文「偶然性」(<http://www.bekkoame.ne.jp/~morihiisa/morip/guuzen-hakusi.htm>)により文学博士となる。今年度の《特殊講義》は、前年度の続き。《講読》は、ベルクソン『物質と記憶』。

「形式と実質」、『雄弁』一二月。

一九三三(昭和八)年

四五歳。三月、京都帝国大学助教授となる。今年度の《普通講義》は、「文学概論」。《特殊講義》は「仏蘭西現代哲学」。《講読》は、デカルト『省察』。

「実存の哲学」、岩波講座『哲学』、三月。

一九三四(昭和九)年

四六歳。七月一四日、幼少の頃を過ごした根岸の家を四〇年ぶりに訪れ、随筆「根岸」を執筆。「或る夜の夢」を執筆。今年後の《特殊講義》は、前学年の続き。《演習》はフッサール『デカルト的省察』。

「夢を語る」、『東京朝日新聞』六月二三～二六日。

「我が人生観」、『理想』一〇月。

一九三五(昭和一〇)年

四七歳。二月、「自然科学及自然科学者に対して何を要求するか」を執筆。三月、京都帝国大

学教授となり、哲学哲学史第四講座を担当。今年度の《普通講義》は「近世哲学史」。《特殊講義》は「現代仏蘭西の実証的形而上学（ベルクソンを主として）」。「《演習》は前学年の続き。

「松茸」（のちに「秋の味覚」と改題）、『大阪朝日新聞』、一〇月六日。

『偶然性の問題』、岩波書店、一二月。

一九三六（昭和一一）年

四八歳。五月、奈良女子高等師範学校文科会において講演「文学の時間性」を行う。随筆「伝統と進取」を執筆。一一月、九鬼の尽力により、ナチスに迫害されドイツを追われた、ハイデガーの下で共に学んでいた友人カール・レーヴィットが東北帝国大学哲学科講師に着任。一二月、「偶然の産んだ洒落」を執筆。“*Propos sur le temps*”のLa notion de temps et la reprise sur le temps en Orientが、和久信章によって『禅学研究』に「東洋的時間について」という題で訳出される。今年度の《普通講義》は、「近世哲学史」。《特殊講義》は「カント及びカント以後の哲学」。《演習》は、ベルクソン『思想と動くもの』。

「偶然の諸相」、『改造』二月（<http://www.bekkoame.ne.jp/~mori-hisa/morip/guuzen-syosou.htm>）。

「藍碧の岸の思い出」、『文藝春秋』二月。

「外来語所感」、『東京朝日新聞』五月三、六日。

「村上氏の批評に答ふ」、『東京朝日新聞』五月一六、一七日。

「哲学私見」、『理想』六月。

「祇園の枝垂桜」、『瓶史』七月。

「書斎漫筆」、『文藝春秋』八月。

アンケート「私に「力」を与えたものは何か」、『実業之世界』九月。

アンケート「如是我観太閤秀吉」、『歴史公論』一〇月。

「日本的性格について」、『龍谷大学新聞』一一月二五日。

一九三七（昭和一二）年

四九歳。一月二三日、ラジオによる講演「偶然と運命」を行う。四月二六日、第三高等学校で講演「日本的性格について」を行う。六月頃、「京都」を執筆。八月、京都大学の夏期講習会において「現代哲学の動向」と題する講演を行う。一二月頃、「ダンスホール禁止について」を執筆。「東京と京都」、「岡倉覚三氏の思出」執筆。今年度の《普通講義》は、「西洋近世哲学史」。《特殊講義》は、前学年の続き。《演習》は、前学年の続き。

「青海波」、『大阪朝日新聞』一月一日。

「日本的性格」、『思想』二月。

「風流に関する一考察」、『俳句研究』四月。

「飛驒の大杉」、『瓶史』七月。

「一高時代の旧友」、『東京朝日新聞』七月一五～一七日。

「時局の感想」、『文藝春秋』一〇月。

一九三八（昭和一三）年

五〇歳。十一月十九日、京都哲学会公開講演会で、「驚きの情と偶然性」と題する講演会を行う。今年度の《普通講義》は、「西洋近世哲学史」。《特殊講義》は、「一九世紀の哲学」。《演習》は、ベルクソン『創造的進化』。

アンケート「美しき日本の着物を護れ」、『大阪朝日新聞』一月。

短歌六首「京の冬」、『文藝』二月。

「自分の苗字」、『文藝春秋』三月。

「芸術と生活の融合」、『短歌研究』四月。

「情緒の系図」、『中央公論』五月。

「人間学とは何か」、『人間学講座』、理想社、一〇月。

一九三九（昭和一四）年

五一歳。三月五日、三十分間のラジオ講演「偶然と驚き」を行う。八月一五日、旧満州国ならびに中華民国視察に出発。九月、帰国。今年度の《普通講義》は、「西洋近世哲学史」。《特殊講義》は、「現代哲学の動向」。《演習》は、前学年の続き。

「驚きの情と偶然性」、『哲学研究』二月。

『人間と実存』、岩波書店、九月。

「故浜田総長の思出」、『浜田先生追悼録』、一〇月。

「二千六百年の前夜」、『大阪朝日新聞』、一二月二九日。

一九四〇（昭和一五）年

五二歳。四月、南禅寺草川町から洛外山科に転居。山科の新居は数奇屋造りの住宅・植木から日時計に至るまで九鬼自らの設計考案によるものであった。今年度の《普通講義》は、「西洋近世哲学史」。《特殊講義》は、「独逸の新カント学派と仏蘭西の科学の哲学」。《演習》は、前学年の続き。

「文学の形而上学」、『新文学論全集』第一巻、河出書房、十一月。

一九四一（昭和一六）年

五三歳。四月一〇日、腹膜炎と診断され京都府立医科大学付属病院に入院する。二九日、短歌二首を成瀬無極に贈る。五月六日、午後一時五〇分逝去。享年五三歳。一日、遺言により洛東鹿ヶ谷法然院にて告別式。法然院境内の墓に葬られる。

「ベルクソンの思ひ出」、『京都帝国大学新聞』二月五日。

「回想のアンリ・ベルクソン」、『理想』三月。

「岩下壮一君の思出」、『カトリック研究』、四月。

『文藝論』、岩波書店、九月。

遺稿集『をりにふれて（遠里丹婦麗天）』、岩波書店、一〇月。

一九四二（昭和一七）年

詩歌集『巴里心景』、天野貞祐編集、甲鳥書林、十一月。

一九四四（昭和一九）年

講義ノート『西洋近世哲学史稿』（上）、天野貞祐編集、岩波書店、十一月。

一九四八（昭和二三）年

講義ノート『西洋近世哲学史稿』（下）、天野貞祐編集、岩波書店、五月。

一九五九（昭和三二）年

講義ノート『現代フランス哲学講義』、岩波書店、六月。

一九五九（昭和三二）年

仏訳Le problème de la contingence、澤瀉久敬訳、東京大学出版会、三月。

一九七六（昭和五一）年

『九鬼周造文庫目録』、甲南大学研究室、二月。

九鬼周造年表

<http://p.booklog.jp/book/73711>

著者：荒木優太

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/arishima-takeo/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/73711>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/73711>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ